

アカイカ 北太平洋

Neon Flying Squid, *Ommastrephes bartramii*



管理・関係機関

北太平洋漁業委員会 (NPFC、設立準備中)

利用・用途

冷凍ロールイカ、総菜

最近一年間の動き

日本沖合の冬春生まれ群を対象とする 2013 年の冬いか漁 (1~3 月) は、加入量は比較的多いと予測されていたが、冬季の漁場が形成されず、2 年続けての不漁となった。一方、北太平洋中央部における大型の秋生まれ群と小型の冬春生まれ群を対象とした 2013 年の夏いか漁 (5~8 月) は約 3,600 トンで、2012 年の漁獲量 (約 5,400 トン) に比べて 6 割に低下した。2013 年の流し網調査による秋生まれ群の資源豊度は、前年よりも 1 割増加したと推定された。また、同様の流し網調査による冬春生まれ群の資源豊度は、2012 年に比べて 47% と減少した。

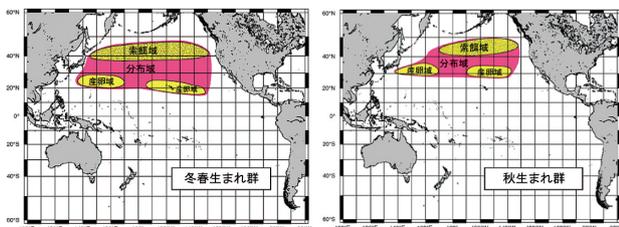
漁業の特徴

我が国では 1979 年から東経 170 度以西を釣り漁場、以東を流し網漁場とする規制が実施された。釣り漁業は縮小したが、流し網漁業は 1980 年代には重要となり、韓国と台湾も参入した。しかし、公海域における流し網漁業は国連決議により 1992 年末をもって操業停止となった。その後、日本近海で釣り漁業が復活し、東経 170 度以東にも出漁するようになった。近年は、中国や台湾の漁船も日本近海で操業している。

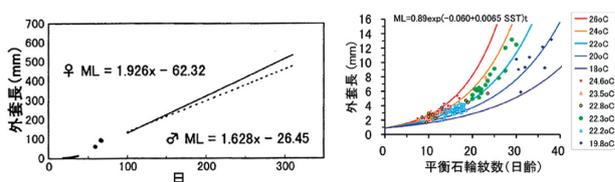
- 生物学的特性**
- 寿命: 1 歳
 - 成熟開始年齢: 約 10 か月
 - 産卵期・産卵場: 秋~春、南西諸島~小笠原諸島、ハワイ諸島
 - 索餌期・索餌場: 春~冬、亜寒帯境界~移行領域
 - 食性: 橈脚類、魚類 (ハダカイワシ類中心)、頭足類、甲殻類
 - 捕食者: メカジキなど

漁獲の動向

かつては流し網漁業により、各国の総計で 20~35 万トンが毎年漁獲されていた。1994 年以降は日本の釣り漁業により 1~7 万トン前後が漁獲され、そのうち約 0.2~2 万トンが東経 170 度以東の旧流し網漁場で漁獲されている。近年は、中国や台湾の釣り漁船が我が国 200 海里付近で操業している。中国船の隻数は数百隻と言われ、漁獲量は 1995~2005 年には 7~13 万トンに及ぶが、最近年の公式な漁獲量の報告はない。



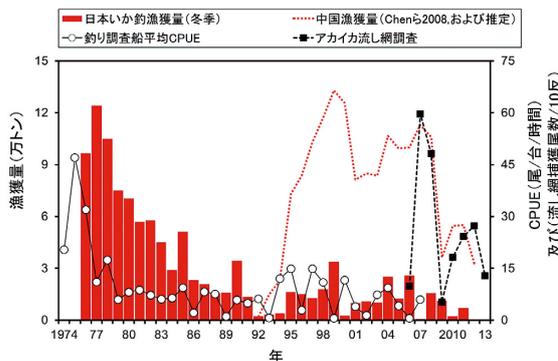
アカイカ冬春生まれ群と秋生まれ群の分布図 (漁場は索餌域に形成される)



アカイカの成長曲線
(左) 親の成長 (Yatsu 2000)、(右) 生息する表面水温に依存する稚仔期の成長曲線 (酒井ほか 2004)

資源状態

東経 170 度以東の秋生まれ群については、1993 年以降流し網の停止により資源が急速に回復したことが示唆された。1997 年に一度水準が低下し、1998 年に高水準に復活したものの、1999 年に再び低水準となり 2003 年まで続いた。東経 170 度以西の秋生まれ群については、2001～2013 年までの 13 年間のアカイカ流し網調査による秋生まれ群の平均 CPUE (10 反あたりの漁獲尾数) は 9.2 であり、2013 年の CPUE は 3.9 であり平均より低かった。この 13 年の CPUE を過去の最低値と最高値の差を 3 等分し、低位、中位、高位と水準分けすると、2013 年は低位に相当する。一方、ここ 5 年間の CPUE で見ると、2009 年 (22.2)、2010 年 (1.1)、2011 年 (0.1)、2012 年 (3.6)、2013 年 (3.9) となり、2009 年から資源は低位で不安定な状態にあると見られる。また、近年の三陸沖合のアカイカ冬春生まれ群を対象とする冬漁では、2001～2013 年の漁獲量の平均値は 1.0 万トンであった。2013 年は 2012 年と同様に漁獲量は極めて低くわずか 90 トンであり、2 年連続の不漁となった。しかし、調査流し網による加入量調査では、2007～2013 年までの平均 CPUE (10 反あたりの採集尾数) は 25.7 であり、2013 年は CPUE は 12.9 と見積もられ、2012 年の値 (27.3) の 47% に減少した。調査流し網 CPUE で見ると 2010 年以降の加入量は 2012 年まで増加傾向にあったが、2013 年には減少した。



東経 170 度以西の我が国のアカイカ冬春生まれ群の漁獲量 (全漁連集計 1～3 月の水揚量から原魚換算) と調査船 CPUE (尾 / 釣り機台数 / 時間) の経年変化 (2007 年を最後にそれ以降の調査はなくなった)、調査流し網 CPUE (東経 144 度及び 155 度における 10 反あたりの採集尾数) による加入量予測値及び中国の漁獲量 (2006 年以降は漁業情報からの推計値)

東経 170 度以東の秋生まれ群の MSY レベル

期間	1979～1998 年
MSY (万トン)	15.9
K (環境収容力; 万トン)	53.4
r (内的自然増加率)	1.19
B _{MSY}	K / 2
F _{MSY}	r / 2

管理方針

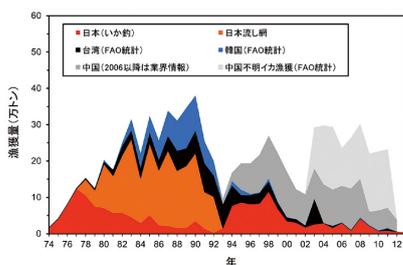
北太平洋漁業委員会 (NPFC) の設立が準備され、国際条約によってサンマ、クサカリッポタイ及びアカイカ等の資源の長期的な保存及び持続可能な利用を確保することを目的としている。北太平洋ではこれまで中国船籍と見られるいか釣り漁船が公海で禁止されている流し網を積載し使用したとの疑いや、米国沿岸警備隊による中国漁船の拿捕などが発生している。また、外国漁船によって日本のいか釣り漁船の操業が妨げられる事態も発生してきた。日本漁船の場合は、始めに魚群を見つけた漁船が優先して、後続の漁船は 3 マイルの船間距離をおくなど操業ルールを作っているが、中国などの外国船にはこのようなルールはなく、過密や割り込み、集魚灯点灯状態での至近距離通過など、危険を伴う無謀な操業が行われてきた。北太平洋公海漁業条約が発効されれば、資源管理だけでなく、操業ルールなどの適切な漁業管理も考慮された持続的な資源利用が徹底されると期待される。

資源評価まとめ

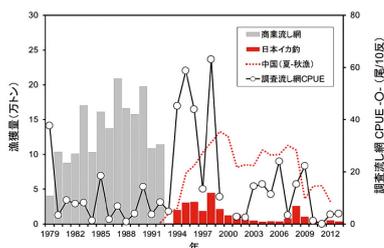
- 東経 170 度以東の秋生まれ群の資源水準・動向は低位・不安定
- 東経 170 度以西の冬春生まれ群の資源水準は低位・減少

資源管理方針まとめ

アカイカ資源は横ばいもしくは減少傾向にあるが、北太平洋における中国の漁獲量は急増しており、アカイカの資源水準の低迷と中国の漁獲の関係についても詳細な調査が必要である。



北太平洋アカイカ国別漁獲量。中国の漁獲量は、Chen *et al.* (2008a) による冬春生まれ群のアカイカ漁獲量とした (2006 年以降は漁業情報からの推定値)。また、FAO (2013) における中国による北太平洋の不明イカ漁獲量の 50% をアカイカ漁獲と見なした場合の値を ■ で示した。台湾及び韓国のアカイカ漁獲量は、FAO (2013) の統計値における北太平洋におけるその他のイカの値をアカイカと見なした。



東経 170 度以東のアカイカ秋生まれ群の我が国の漁獲量 (2013 年までの全漁連集計より) と調査流し網 CPUE (10 反あたりの採集尾数) の経年変化 (1999 年までの調査流し網データは北海道大学の北星丸による) 及び中国の漁獲量 (2006 年以降は漁業情報からの推計値)

アカイカ (北太平洋) の資源の現況 (要約表)

資源水準	低位 (秋生まれ群、冬春生まれ西部系群)
資源動向	不安定 (秋生まれ群)・減少傾向 (冬春生まれ西部系群)
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	7.4～13.7 万トン 平均: 10.0 万トン (2007～2011 年) (中国の不明イカを除く FAO 統計及び漁業情報からの推計)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	0.7～4.2 万トン 平均: 1.7 万トン (2008～2012 年) (全漁連水揚げ統計の原魚換算)